

2014 年度 心コミ大賞 映像作品部門 審査結果並びに講評

< 審査員 > 阪井、妹尾、後藤、小幡

【映像作品部門】

心コミ大賞:

「Save Data」

戸部 祐太

クリスタルグラス杯

審査員特別賞

「空想ストラグル」

梶浦 優輔

奨励賞

「北星の留学生はどんなことを考えているの？」

栗井 由貴

講評:

本年度は、応募作品2本に、本学科内の授業科目で制作された作品4本を加え、計6本を審査しました。授業科目で制作された作品の出来が非常に良く、それが賞全体のレベルを格段に押し上げました。入選作はもちろん、選外となった作品も甲乙つけがたいほど素晴らしい出来でした。

大賞は審査員の満場一致で決まりました。構成力、質の高さとも群を抜いていました。特別賞は実写とコマ撮りの組み合わせ。費やしたであろう時間と労力に、審査員一同脱帽です。奨励賞は外国人留学生にインタビューする内容です。制作者の手柄が、リラックスした雰囲気から伝わってきます。

さて、欲を言わせてもらいます。今年も残念ながら、学外の対象に切り込むドキュメンタリーがありません。外界を映像で表現するには、高いハードルを越える必要があります。中でも、登場人物と交渉し、信頼関係を築き、その期待の目を背に制作する作業は、地味でとても骨が折れます。でも、このプロセスが私たちに、社会を見る目、人とつながる力を養ってくれます。

次回はぜひ、外界の現実体に体当たりするドキュメンタリーを見せてください。テーマは身近なところにたくさん埋もれています。さあ、カメラを手に、街に出ましょう。人に会いましょう。

以下、各作品についての講評です。

心コミ大賞:クリスタルグラス杯 「Save Data」

戸部 祐太

カット割りや編集のテンポがよく、カメラワークも効果的。それでいて編集による特殊効果を多用しすぎず、素材を生かした、非常に完成度の高い作品です。ストーリーも「時間を戻せたらいい」という、誰もが抱いたことのある願望を風刺的に描いています。せりふやナレーションが一切なく、最後まで映像のみで構成するという高度な手法を取り入れています。この作風でぜひ2作目を期待したいところです。

審査員特別賞 「空想ストラグル」

梶浦 優輔

コマ撮りアニメは技術や見せ方に凝るあまり、ストーリーの構成が甘くなりがちです。でも、この作品は、2人の青年がそれぞれの特技の「小説」と「手品」を使い、空想の中で戦うという物語性がしっかりと練られています。実写とコマ撮りを織り交ぜているところも面白い。完成をイメージしながら、計画を立て、見通しを持ってこれだけの撮影をやり遂げたことに敬意を表します。

奨励賞

「北星の留学生はどんなことを考えているの？」

栗井 由貴

同じ大学で学ぶ留学生数人に、キャンパス内でインタビューするというシンプルな作品です。留学生がそれぞれの自国の大学、学生の様子や、彼らから見た北星の印象を語り、見る人に比較文化的な発見をさせてくれます。制作者自らが英語でのインタビューに挑み、率直なコメントを引き出しています。留学生のふだんの生活ぶりも撮影できれば、より輝いた作品になるでしょう。